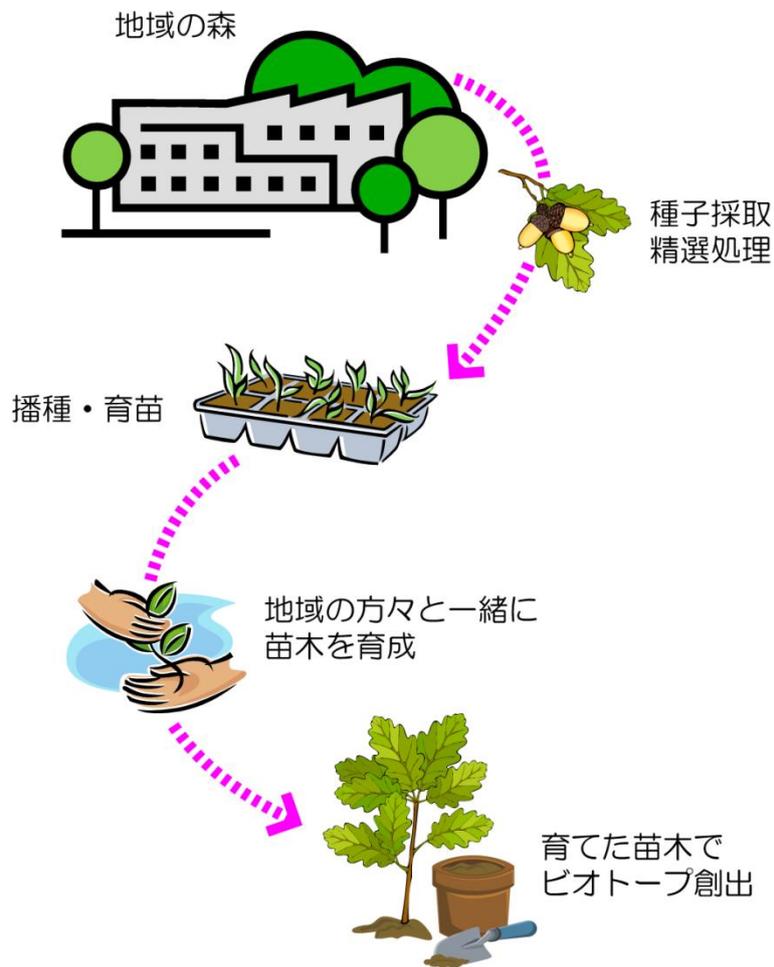


# 地域在来の樹木から苗木を育てる

## ～種まき編～



西三河生態系ネットワーク協議会



- 苗床に使う土を用意します。
- 用土の例
  - ・鹿沼土、赤玉土、腐葉土を同じくらいの割合で混合



- 袋から開けて、シャベル等でよく混ぜ合わせます。



- 種を播くポットの底に敷く、鉢底ネットを用意します。
- ポットの底の大きさより、やや小さくなるよう切り分けます。



- 種を播くポットを用意します。
- ・ポットの大きさの例  
(径 12cm, 約 0.8 リットル)
- 切り分けた鉢底ネットをポットの底に配置し、土の流出を防ぎます。



○スコップやシャベルを用いて、鉢底ネットを配置したポットに土を9分目くらいまで詰めます。



○育苗箱または苗トレーを用意します。  
○土を詰めたポットを、育苗箱または苗トレーに同数ずつ収容します。



○種子の小さな樹種（ヒサカキ、モチノキ、ソヨゴ、カクレミノ、リョウブ、ネジキ、シャシャンボ）は、スプーン等を用いて、1ポットに4～10数個ずつ播いて、軽く覆土します。



○どんぐり（アラカシ、アベマキ、コナラ）は、1ポットに1個ずつ、4～5cmの深さに横向きで置いて、覆土します。



- 種を播いたポットを収容した育苗箱（または苗トレー）に、「樹種名、播種日付、採種地」を記したラベルを設置します。
- 最初の水やりは多めに行います。



- 虫や鳥、冬の寒さから種を守る寒冷紗を被せて、端をコンクリートブロック等の重石で押さえます。



- 育苗管理をしやすいよう並べます。



- 土が乾燥しない程度に、寒冷紗の上から水やりを続けます。